

市内中小企業の景況について

第 129 回京都市中小企業経営動向実態調査【結果概要】

～今期企業景気 DI は 6.1 ポイント上昇，来期見通しは 0.7 ポイント低下～

市内中小企業の経営実態，経営動向などを把握するため，四半期ごとに郵送によるアンケート調査として実施しています「京都市中小企業経営動向実態調査」及び「付帯調査（平成 30 年の企業経営実績と平成 31 年の業績見通しについて）」の結果がまとまりましたので，御報告します。

<市内中小企業の景況について（別紙 1 参照）>

○今期（平成 30 年 10 月～12 月期）実績

- ・ 今期の企業景気 DI は，全産業で 6.1 ポイント上昇（37.0→43.1）。製造業で 2.6 ポイント上昇（41.8→44.4），非製造業は 9.4 ポイント上昇（32.5→41.9）。
- ・ 業種別では，印刷，窯業，化学，小売，情報通信，飲食・宿泊が 2 桁の上昇となるなど，多くの業種で上昇。

※調査は，前年同期比での「上昇・増加や下降・減少」を問うもの

- ・ 製造業（上昇：西陣，染色，印刷，窯業，化学，金属 / 低下：機械，その他の製造）
 【主な上昇理由】・「新しい商品に動きがあった」（南区／印刷）
 【主な低下理由】・「人手不足や送料などの経費上昇」（中京区／その他の製造）
- ・ 非製造業（上昇：卸売，小売，情報通信，飲食・宿泊，サービス，建設）
 【主な上昇理由】・「海外販売の増加」（下京区／小売）
- ・ 観光関連は，14.5 ポイント上昇。

○来期（平成 31 年 1 月～3 月期）見通し

- ・ 来期の企業景気 DI は，全産業で 0.7 ポイント低下（43.1→42.4）。製造業で 2.2 ポイント低下（44.4→42.2），非製造業で 0.8 ポイント上昇（41.9→42.7）の見込み。
- ・ 業種別では，印刷，窯業，金属，機械，卸売，情報通信，建設で低下の見込み。

- ・ 製造業（上昇：西陣，その他の製造 / 低下：印刷，窯業，金属，機械）
 ※ 染色，化学は，前期と同水準
 【主な上昇理由】・「売上依存の高い取引先からの受注増」（下京区／その他の製造）
 【主な低下理由】・「主要得意先の減少」（右京区／印刷）
 ・「少し景気後退の局面にきている気がする」（南区／機械）
- ・ 非製造業（上昇：小売，飲食・宿泊，サービス / 低下：卸売，情報通信，建設）
 【主な上昇理由】・「年末にかけて多くの受注があった」（南区／サービス）
 【主な低下理由】・「人件費の高騰と販売数の微減」（上京区／卸売）
 ・「地価の上昇」（下京区／建設）
- ・ 観光関連は，1.7 ポイント上昇の見込み。

(参考) 1 調査対象企業数 800 社。うち 481 社が回答（回答率 60.1%）

$$^2 \left[\text{企業景気DI} = \frac{(\text{上昇, 増加と回答した企業割合}) - (\text{低下, 減少と回答した企業割合})}{2} + 50 \right]$$

<経営上の不安要素>

- ・ 経営上の不安要素は、上位から「人材育成」が46.4%、「売上不振」が38.9%、「人手不足」が35.5%、「競争激化」が30.2%となっている。
- ・ 前期との比較では、「人手不足」が4.8ポイント増と最も増加し、続いて「円安」が2.3ポイント増となっている。
- ・ 「人手不足」が5期連続で30%を超え、今回初めて35%を超えた。
- ・ 業種別にみると、化学、金属、機械、その他の製造、卸売（※）、小売、情報通信、サービスの8業種では「人材育成」と回答した企業が最も多く、西陣、染色、印刷、飲食・宿泊の4業種では「売上不振」と回答した企業が最も多かった。窯業、建設の2業種では「人手不足」が最も多かった。
※ 他に「売上不振」が同数。

<付帯調査：平成30年の企業経営実績と平成31年の業績見通しについて（別紙2参照）>

A 平成30年の業績は平成29年と比較していかがか。

～「前年並み」が41.0%と最多～

- ・ 「悪かった」が25.6%、「良かった」が18.1%と続く。
- ・ 「悪かった」が1.4ポイント上昇する一方、「良かった」が5.2ポイント低下。

B 平成31年の業績見通しは平成30年の実績と比較していかがか。

～「今年並み」が48.2%と最多、「悪くなる」が5.0ポイント上昇～

- ・ 「悪くなる」が23.5%、「良くなる」が17.0%と続く。
- ・ 「悪くなる」が5.0ポイント上昇する一方で、「良くなる」が2.4ポイント低下。

C 平成30年の業績に影響を与えた要因は（複数回答可）。

～プラス要因では「営業努力」が上昇、マイナス要因では「国内景気」が上昇～

- ・ プラス要因は「営業努力」が5.1ポイント増の67.6%で最多、「新商品・新技術の開発」が28.9%、「国内景気」が22.4%と続く。
- ・ マイナス要因は「他社との競争」が30.2%で最多、「国内景気」が6.1ポイント増の29.6%と続く。

D 平成31年の業績見通しに影響を与えると予想される要因は（複数回答可）。

～プラス要因では「新事業の展開」が上昇、マイナス要因では「税制改革」が上昇～

- ・ プラス要因は「営業努力」が62.4%で最多、「新商品・新技術の開発」が29.3%、「新事業の展開」が20.4%と続く。
- ・ マイナス要因は「他社との競争」が32.6%、「国内景気」が28.2%と続く。
- ・ 平成30年実績との比較では「新事業の展開」が9.0ポイント増、「税制改革」が8.4ポイント増。

E Dで選択した平成31年の業績見通しに影響を与えると予想される要因のうち、最も影響の大きい要因は。

～最も影響が大きいプラス要因は「営業努力」、マイナス要因は「雇用情勢」～

- ・ プラス要因は「営業努力」が18.2%で最多、「新事業の展開」が14.1%と続く。
- ・ マイナス要因は「雇用情勢」が14.5%で最多。

F 平成30年及び平成31年の賃金水準について。

～賃金水準は平成30年、平成31年ともに、「引上げた」「引上げる予定」が最多～

- ・ 平成30年の賃金水準は「引上げた」が4.9ポイント増の66.8%と高水準を維持。
- ・ 平成31年の賃金水準は「引上げる予定」が51.7%。

G 平成30年及び平成31年の賃金水準の引上げ内容について。

～平成30年、平成31年ともに、「ベースアップ」が最多～

- ・ 平成30年は「ベースアップ」が5.3ポイント増の43.2%で最多。
- ・ 平成31年も「ベースアップ」が8.2ポイント増の45.1%で最多。

H 今後、拡充及び縮小する部門は。

～拡充は「営業部門」がトップ、縮小は「特になし」が74.5%と圧倒的～

- ・ 拡充する部門は「営業部門」が48.2%で最多、「企画・開発部門」が29.9%と続く。縮小する部門は「特になし」が74.5%と圧倒的で、「事務部門」が10.1%と続く。